



第12回学術大会を終えて

大会実行委員長 山下 恵子

第12回日本音楽療法学会学術大会を、日野原重明大会長のもと2012年9月7日の講習会に続いて、8日、9日と宮崎市のシーガイアコンベンションセンターにて開催することができました。学術大会参加者が約1,300人、県民講座の一般参加者が1,500人、3日間延べ5,500人の方々にご参加頂きました。大会を無事に終了することができましたことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、今回の大会テーマは「音楽の創造性—音楽療法の《ちから》を探る—」ということで、音や音楽と人と人との繋がりに焦点を当てたプログラムを構成致しました。開会セレモニーでは、まず伝統民俗芸能である椎葉村の「尾前神楽」の舞い、次に大会長講演では、日野原重明先生に音楽と歩まれた100年間の歴史を語って頂きました。その歴史の重さに感動を覚えつつ「苦難は後に恩寵 (grace)」という心に残るお言葉を頂戴しました。その後のミュージカル「ぞうれっしゃがやってきた」では、子どもから大人まで、心をつなげて演ずる姿があり、会場の皆様の温かい眼差しに包まれながら、音楽が人と共にあるという瞬間を共有する時となりました。これらのプログラムは、宮崎県民講座として、河野俊嗣宮崎県知事をはじめ県民の方々にもご参加頂き、3,000人収容の会場が満杯となりました。また、きたやまおさむ先生の特別講演では、精神分析学の立場から人と人との関係性の成立というセラピーの中で最も大切な視点をご教授頂き、音楽療法の中で精神分析的な視点を持つことの必要性を感じさせられました。これらの論点を様々な角度からご議論頂いたのが、松井紀和、徳丸吉彦、齋藤考由、中島恵子各先生によります「座

談会」でした。そして、米良美一様のゲスト講演では、人が生きていくということを深く考える機会となり、「ヨイトマケの唄」の歌声には涙があふれて参りました。研究発表の面でも、多くの方々にご発表頂き、大変熱心な議論が繰り広げられました。さらに、交流会には、400人の方々にご参加頂き、宮崎県オペラ協会、そして「響座」の和太鼓の演奏と楽しい一時を過ごさせて頂きました。松林と太平洋を一望できるゆったりとした会場で、マンゴー色のスタッフ一同も皆様方の温かい励ましのお言葉に支えられた3日間でした。

このように、無事に大会を終えることができました背後には、学会本部役員及び事務局の皆様の多大なご尽力がありました。また、日高まり子実行副委員長をはじめとする大会実行委員や学会員ボランティアの皆様、宮崎学園短期大学教職員並びに学生の皆様には、準備段階から当日運営、後片付けまで、たくさんのご協力を頂きました。すべての関係者の皆様に対しまして、この紙面をお借りして、改めて心からの感謝を申し上げます。

日本音楽療法学会の音楽療法活動がますます発展することをご祈念申し上げて、報告を終わらせていただきます。本当にありがとうございました。

第13回学術大会は、鳥取県米子市で開催されます。来年米子市でお会いできますことを楽しみに致しております。



(オープニングセレモニー 尾前神楽)

第13回日本音楽療法学会学術大会に向けて —第一次案内—

大会長 岩永 誠

第13回日本音楽療法学会学術大会は、中国支部が担当して米子で開催されます。盛況のうちに終わった宮崎から、山陰・米子へのバトンタッチです。

第13回大会は、中国支部2回目の大会となります。前回担当の第4回大会のテーマは、「音楽療法の『音・音楽』の意味・役割を考える」でした。それから約10年が経ち、東日本大震災を経験した今だからこそ、音楽の力、音楽療法の役割を考え直す時期が来たのではないかと思います。

東日本大震災では「絆」が再認識されました。音楽療法の、音楽によってどのように人と「つながる」ことができたのでしょうか。第13回大会は、「音楽療法の役割を再考する ～個のつながりや地域とのつながりを通して～」をテーマとし、被災した方たちへの支援という新たな音楽療法の展開が求められる中、「音楽」と「人」とのつながり、音楽を通しての「個」と「個」、「個」と「地域」とのつながりについて考えていきたいと思っています。

この趣旨を受けて、大会2日目に行われる大会企画シンポジウムでは、「音楽療法における新たな『つながり』」をテーマに、これからの音楽療法に求められる多様な『つながり』について考えていきたいと思っています。大会長講演で、その導入としての問題提起を行い、シンポジウムでの議論につなげていきたいと考えております。

大会1日目の午前中は、日野原重明理事長による理事長講演、および鳥取での開催を記念しての講演として「童謡・唱歌の持つ歌の力」についての講演を、午後からは東京女子医科大学名誉教授で音楽に造詣の深い岩田誠氏による「音楽と脳」に関する特別講座を予定しております。いずれも音楽との関わりをとらえなおす上で興味深い話を聞くことができるものと思います。

大会の日程と会場は、以下の通りです。



○開催日程 : 2013年9月6日(金): 講習会
9月7日(土)・8日(日): 学術大会

○会場 : 米子コンベンションセンター BIG SHIP (鳥取県米子市末広町)

米子は、ゲゲゲの鬼太郎で有名な境港市や皆生温泉が近く、また伯耆大山(ホウキダイセン)の自然に触れることもできます。体力のある方は大山登山に挑戦してみてください。ちょっと足を伸ばせば、足立美術館や和菓子の町松江、出雲大社も楽しむことができます。出雲大社は縁結びの神様として有名ですが、パワースポットとしても有名です。学会のついでに、山陰の良さを満喫してください。

■ 日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会

委員長 加藤 美知子

これまでの歴史の中で人類は、ホモ・ムジカとしてどんなに辛く苦しい時でも音楽を捨てたことはありませんでした。昨年の震災において私たちはそのことを経験し、また同時に音楽療法という専門分野のアイデンティティの曖昧さをも知りました。このような時世において本研修・講習会では「音楽療法士の質の維持・向上のためのスーパービジョン」という大きなテーマを掲げ、3年計画で取り組んでまいりました。また学会全体としまして、時限つきでの「スーパービジョン特別検討委員会」の設置やスーパーバイザー登録制の開始、さらに新認定制度においては1回のスーパービジョンが課せられるなど、音楽療法士の質の向上には欠かすことのできないスーパービジョンの必要性を強く意識しております。

このような流れのなか当委員会では、3年計画の最終年度として、11月には海外から先生方をお迎えしスーパービジョンの講習会を開催、さらに今回ご案内の研修・講習会においても、スーパービジョン一色の講習会を計画いたしました。その内容として、1日目、公開のスーパービジョンでは今村先生がバイザーをされ、渡邊えりか氏にバイザーの役をお引き受けいただき、そのスーパービジョンを松井先生にご覧いただき、次のプログラムにおいて松井先生がコメンテーターとしてスーパービジョン全体を振り返るといふ、新しい企画にチャレンジします。また2日目には、土野先生の音楽療法士としてのこれまでをスーパービジョンという視点から語っていただき、午後には、日本で初めてスーパービジョンを体系化し、対人援助職におけるその必要性を提唱され続けている福山和女先生をお招きし、「現場に活かせるスーパービジョン」というテーマで講演をしていただきます。

尚、今回のスーパービジョンは精神科領域を扱いますが、どの領域の実践者にとっても有意義なものになるプログラムです。自分自身を振り返るために、また、よりよい音楽療法の将来のために、お一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。お申し込みなどの詳細は、12月に送られる案内パンフレットをご参照ください。

2013年2月23日(土)

12:00	受付開始	
12:45~12:55	ガイダンス	研修・講習委員会 委員長：加藤 美知子 学会事務局長 : 越智 和雄
13:00~14:30	スーパービジョン 精神科領域	バイザー：渡邊 えりか (医療法人社団慈泉会 ひもろぎ心のクリニック 東京国際音楽療法専門学院) バイザー：今村 ゆかり (医療法人哺育会横浜相原病院・東海大学)
14:30~14:45	休憩	
14:45~15:45	スーパービジョンを振り返って	バイザー：渡邊 えりか バイザー：今村 ゆかり コメンテーター：松井 紀和 (日本臨床心理研究所所長)
15:45~16:00	休憩	
16:00~17:30	「音楽療法のスーパービジョンとは」	松井 紀和 (日本臨床心理研究所 所長) 司会：加藤 美知子 (研修・講習委員会委員長)
17:30~17:35	諸連絡 1日目終了	

2013年2月24日(日)

09:15	受付開始	
09:45~09:50	ガイダンス	研修・講習委員会 委員長：加藤 美知子 学会事務局長 : 越智 和雄
09:50~12:00 (途中休憩10分)	講演「スーパービジョンを受けていて <今> 思うこと」	土野 研治 (日本大学芸術学部教授)
12:00~13:00	昼食休憩	
13:00~15:00	特別講演 「現場に活かせるスーパービジョン」	福山 和女 (ルーテル学院大学教授)
15:00~15:15	休憩	
15:15~16:15	「音楽療法のスーパービジョン研修と 今後の展望」	スーパービジョン検討特別委員会委員長：郡司 正樹 研修・講習委員会委員：高山 仁 門間 陽子 吉村 奈保子 司会：加藤 美知子 (研修・講習委員会委員長)
16:15~16:20	閉会の挨拶 2日目終了	

*会場は、例年通り東京都千代田区一ツ橋の日本教育会館です。なお、講師の都合により変更が生じることがありますことを、ご了承ください。

日本音楽療法学会認定音楽療法士資格再取得規定追加のお知らせ

更新規則検討委員会

日本音楽療法学会認定音楽療法士資格更新規則へ再取得規定が追加されましたのでお知らせいたします。

今後資格を失効した方は以下の方法で再度資格を取得することができます。

※『日本音楽療法学会認定音楽療法士資格更新規則』日本音楽療法学会資格更新・再取得規定より、5条のみ抜粋。

日本音楽療法学会資格更新猶予・再取得規定

5条 日本音楽療法学会認定音楽療法士の資格を失効した者が、再度同資格の取得を希望する際の条件は以下のように定める。

- 1、日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格取得者は、本学会が行う面接試験を受験し合格する。
- 2、日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格を取得していない者は、本学会による学会認定音楽療法士（補）試験を受験し、合格後、本学会が行う面接試験を受験し合格する。
- 3、海外にて音楽療法士資格を取得者は、以下のように定める。
 - 1) 海外にて取得した資格が失効していない場合には、本学会面接試験を受験し合格する。
 - 2) 海外にて取得した資格が失効している場合には、本学会認定音楽療法士（補）試験を受験し合格した後、面接試験を受験し合格する。

日本音楽療法学会音楽療法士認定規則（面接試験）改訂のお知らせ

認定規則検討委員会

日本音楽療法学会音楽療法士認定規則（面接試験）が改訂されましたのでお知らせいたします。

今後資格審査を申請される方はこの認定規則に沿って申請してください。認定規則取り寄せ方法、今年度の資格審査申請期間等については7ページをご覧ください。

日本音楽療法学会 認定音楽療法認定規則（面接試験）（改訂） 認定規則（面接試験）抜粋

認 定 規 則

1. 資格認定方法
認定は、本学会に提出された申請書類に基づき、本学会内に設置された資格認定委員会の審議を経て本学会がこれを行う。資格認定委員会は本学会が選出した若干名の委員により構成される。
2. 申請資格
面接試験申請は以下の条件を満たした4者が該当者となる。尚、申請者は本学会の正会員であることを、前提、必須条件とする。すでに会員である場合は前年度の会費を納めている事を条件とする。ただし、以下に示す受験資格校（補A）に限り、正会員資格取得見込みで申請することができる。
 - 1) 受験資格校を卒業見込み、または卒業した者で、（補）資格を取得し、同一年度に面接試験を受ける者（以下 受験資格校 補A）
 - 2) 受験資格校を卒業し（補）資格取得と別年度に面接試験を受ける者（以下 受験資格校 補B）
 - 3) 本学会音楽療法士新認定制度により、本学会認定音楽療法士（補）の資格を取得した者（以下 新認定制度 補）
 - 4) 日本国外の音楽療法士養成機関などにおいて音楽療法士資格を取得している者（以下 海外資格取得者）
3. 審査報告
資格認定委員会は、申請者が提出した申請書類の審査及び面接試験を行い、その結果を本学会理事会に報告する。
4. 通知
理事会は資格認定委員会の報告を受け、適切であると認めた場合は、速やかに申請者本人にその結果を報告する。なお認定した申請者に対しては、認定証を交付する。

I. 受験資格校を卒業見込み、または卒業した者で、（補）資格を取得し、同一年度に面接試験を受ける者（補A）用

審査該当者および面接試験内容

資格審査（面接試験）にあたり、審査該当者および面接試験内容について以下のように定める。

【1】面接試験審査の該当者

- 1) 日本音楽療法学会正会員である者。すでに会員である者は前年度の会費を納めていること。ただし、まだ会員でない場合は、面接試験合格後に会員登録が可能な者。
- 2) 日本音楽療法学会により認定された（補）受験資格校を卒業見込み、または卒業した者で、（補）資格を取得し、同一年度に面接試験を受ける者。

【2】面接試験内容

面接では、口頭試問と実技試験が行われる。

1) 口頭試問

日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格試験（筆記試験）において作成した小論文をもとに音楽療法士としての資質などが確認される。

2) 実技

弾き歌いを行う。

伴奏楽器はキーボードまたはギター。キーボードは会場に用意されている61鍵盤（タッチレスポンス付き、サスティンペダル付き）を使用すること。ギターを使用する場合は持参すること。その他の携帯伴奏楽器は不可。

曲目は、学会指定の課題曲から選択する。

課題曲は、A群5曲、B群5曲、合計10曲の中からそれぞれ2曲ずつ、計4曲選択し、申請する。その中から、当日指定された1曲を演奏する。

Ⅱ. 受験資格校を卒業し、(補) 資格取得と別年度に面接試験を受ける者 (補 B) 用

審査該当者及び面接試験内容

資格審査(面接試験)にあたり、審査該当者および面接試験内容について以下のように定める。

【1】面接試験審査の該当者

- 1) 日本音楽療法学会正会員である者。すでに会員である者は前年度の会費を納めていること。
- 2) 日本音楽療法学会により認定された(補)受験資格校を卒業し、認定音楽療法士(補)資格を取得した者のうち、(補)資格取得と別年度に面接試験を受ける者。

【2】面接試験内容

面接試験では口頭試問と実技試験が行われる。

1) 口頭試問

口頭試問により音楽療法士としての資質などが確認される。

口頭試問の資料として以下の2つから選択し提出する。

①事例レポート

②面接試験当日、指定されたテーマで作成した小論文

2) 実技

弾き歌いを行う。

伴奏楽器はキーボードまたはギター。キーボードは会場に用意されている61鍵盤(タッチレスポンス付き、サスティンペダル付き)を使用すること。ギターを使用する場合は持参すること。その他の携帯伴奏楽器は不可。

曲目は、学会指定の課題曲から選択する。

課題曲は、A群5曲、B群5曲、合計10曲の中からそれぞれ2曲ずつ、計4曲選択し、申請する。その中から、当日指定された1曲を演奏する。

Ⅲ. 新認定制度(補)用

審査該当者及び面接試験内容

資格審査(面接試験)にあたり、審査該当者及び面接試験内容について以下のように定める。

【1】面接試験審査の該当者

- 1) 日本音楽療法学会正会員である者。すでに会員である者は前年度の会費を納めていること。
- 2) 日本音楽療法学会音楽療法士新認定制度により認定音楽療法士(補)資格を取得した者。

【2】面接試験内容

面接試験では口頭試問と実技試験が行われる。

1) 口頭試問は以下の2つをもとに音楽療法士としての資質などが確認される。

- (1) 日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)資格審査(筆記試験)と同一年度に面接試験を受ける場合は、同筆記試験において作成した小論文および提出した事例レポート。

(2) 日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)資格審査(筆記試験)とは別年度で面接試験を受ける場合は、面接試験当日、指定されたテーマで作成した小論文および提出した事例レポート。

2) 実技

弾き歌いを行う。

伴奏楽器はキーボードまたはギター。キーボードは会場に用意されている61鍵盤(タッチレスポンス付き、サスティンペダル付き)を使用すること。ギターを使用する場合は持参すること。その他の携帯伴奏楽器は不可。

曲目は、学会指定の課題曲から選択する。

課題曲は、A群5曲、B群5曲、合計10曲の中からそれぞれ2曲ずつ、計4曲選択し、申請する。その中から、当日指定された1曲を演奏する。

Ⅳ. 海外資格取得者用

審査該当者及び面接試験内容

資格審査(面接試験)にあたり、審査該当者および面接試験内容について以下のように定める。

【1】面接試験審査の該当者

- 1) 日本音楽療法学会正会員である者。すでに会員である者は前年度の会費を納めていること。
- 2) 日本国外の音楽療法士養成機関などにおいて音楽療法士資格を取得している者。
- 3) 日本国外において音楽療法士資格を取得した後、日本において主セラピストとして1年以上の音楽療法の臨床経験がある者。

*臨床経験の内容は、音楽を使用し、心身に何らかの病気、障害のある人を対象とし、その障害の軽減を目的とした臨床経験、または心身の病気・障害の予防を目的とした経験であること。

*臨床経験の数は、上記の臨床活動を12ヶ月間に40日行った場合に臨床経験1年と数える。12ヶ月を待たずに40日に達しても、活動開始から12ヶ月経過したときに臨床経験1年と数える。12ヶ月以内に40日に達しない場合には、40日に達した月をもって1年の臨床経験と数える。なお、その活動が同日に複数の場所で複数回行っても1日と数える。1日に行った活動の時間数は問わない。
例：心身に何らかの病気、障害のある人を対象としたピアノのレッスンを4月から月1回行った場合、その1日に行うレッスン数、対象人数、総時間数には関係なく、40日に達するのはレッスン開始3年後の7月になる。

(1日、10人を対象に総時間5時間行っても、上記の計算となる)

4) 日本音楽療法学会または支部主催の学術大会に1回以

上参加した者。

【2】面接試験内容

面接試験では口頭試問と実技試験が行われる。

1) 口頭試問

事例レポートをもとに臨床経験などに関する口頭試問が行われ、音楽療法士としての資質などが確認される。

2) 実技

弾き歌いを行う。

伴奏楽器はキーボードまたはギター。キーボードは会

場に用意されている61鍵盤（タッチレスポンス付き、サスティンペダル付き）を使用すること。ギターを使用する場合は持参すること。その他の携帯伴奏楽器は不可。

曲目は、学会指定の課題曲から選択する。

課題曲は、A群5曲、B群5曲、合計10曲の中からそれぞれ2曲ずつ、計4曲選択し、申請する。その中から、当日指定された1曲を演奏する。

————— ✕ ————— ✕ ————— ✕ ————— ✕ ————— ✕ ————— ✕ ————— ✕ —————

■ 2012年度資格審査について ■

●2012年度資格審査を申請できるのは次の方です。

1. 日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格（合格年度に関わらず）を有する方
2. 日本国外の音楽療法士の認定資格を有する方

●2012年度資格審査申請受付期間

2013年2月1日（金）～2月15日（金）まで事務局必着

●申請方法

認定規則「日本音楽療法学会音楽療法士認定規則（面接試験）」を取り寄せ、それに沿って申請する。

***認定規則（面接試験）取り寄せ方法**

500円の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、「日本音楽療法学会認定規則（面接試験）請求」として学会事務局へ申し込む（会員のみが配布対象）。

●書類審査結果

2月下旬通知 *書類審査合格者には面接試験の案内を同封。

●面接日 *面接日時の変更はできませんのでご承知おきください。

東京会場 2013年3月16日（土）、17日（日）

大阪会場 2013年3月23日（日）

●面接内容

実技を含む15分間

●最終審査（面接）結果

2013年3月末日通知

北海道支部 — 近況 —

事務局長 安藤 妙子

皆様こんにちは。北海道支部の近況をお知らせいたします。

今年度は、5月12日(土)2012年度支部総会・第21回支部研修会の教育講演、13日(日)演題発表・ワークショップと2日間の研修会を開催し内容的にも大変好評でした。

今後の課題は残りましたが、皆さんと話し合い、ご協力を頂きながら良い方向へ進みたいと思っています。8月末発行の支部ニューズレター第22号にも掲載致しております。

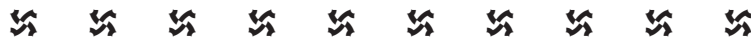
さて、本年10月28日(日)は、北翔大学北方圏情報センターポルトにおいて第22回支部研修会が下記の内容で開催されます。

- ・一般演題発表
- ・医学ミニレクチャー 久村正也先生
- ・事例研究報告の抄録の書き方 郷久鉦二先生
- ・教育講演 中田力先生 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター
センター長・教授をお迎えして「心を創る脳機能——音楽の意味するものは」と題してお話しいただきます。

支部会員以外の方も参加できます。(詳細は支部ホームページをご覧ください)

また、本年度は支部役員選挙の年でもあり支部会員名簿も発行致します。

今後とも北海道支部をどうぞよろしくお願い致します。



東北支部 — 近況 —

事務局長 渡邊 恵里

全国の学会員の皆様には、東日本大震災に関しまして引き続きのご支援を頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

東北支部では、お陰様で、6月に山形市山形テルサにおきまして通常の形での第12回支部学術大会を無事開催することができました。教育講演、引き続きの講習会では、古平孝子氏をお迎えし、「分析的音楽療法」を講義と今までにない新鮮な音の体験を通して、参加者は、自分の内面、相手の理解などを様々な気づきを得たようでした。もう一つの講習会で地元山形大学の大村一史氏を講師に「脳研究の視点」から学び、理論的ながら、障がいを持った人々の「幸福の追求」といったゴールを見据えての目標に取り組むという印象的なお話しでした。シンポジウムでは、テーマである「音の未来(さき)にあるもの」を井上綾、中谷良子、舩屋晶子の3人の支部学会員が話題提供を行い、ファシリテーター生野里花氏のもと震災後のThの様々な葛藤や取り組みなどが伝えられました。会場からもこれまでにない活発で暖かなやり取りがなされ、充実したシンポジウムになりました。参加者数は震災前には至りませんが、こういった支部の活動がまだ参加が難しい支部学会員にも勇気と希望を与えるとの思いも伝えられており、今後も地道に活動をしていく所存です。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



関東支部 — 近況 —

事務局長 猪之良高明

第10回日本音楽療法学会関東支部 講習会・地方大会(埼玉)が2013年3月16日(土)～3月17日(日)の2日にわたって、帝京平成大学池袋キャンパスにおいて開催されます。「ひとつの音からの出発」を大会テーマに様々な企画で皆様をお迎えしたいと思います。

なお、東日本大震災における被災地支援の一環として、東北支部会員を対象に今回の講習会・大会参加費免除をさせていただくことが承されました。詳細については、今後、関東支部ホームページに掲載されますのでご覧ください。また、関東支部会員のみならず他支部会員の参加も歓迎いたしますので、ぜひお越しください。

また、関東支部では会員からの要望を踏まえ、低料金または無料かつ身近な地域で受講できる研修として、関東支部主催県別講習会を開催しております。支部以外の会員参加可能な研修もありますので、詳細は今後のニュースやホームページをご覧ください。

- ① 群馬県 2012年12月8日(土) 10:00~17:00 (支部会員のみ参加可能)
群馬県庁昭和庁舎
音表現紹介、事例検討会、ワークショップ
- ② 茨城県 2013年1月27日(日) 14:00~17:00 (支部以外会員・一般参加可能)
つくばサイエンスインフォメーションセンター大会議室予定
内容: 講演(講師は検討中) 支部以外会員以外は参加費800円
- ③ 栃木県 2013年1月27日(日) 13:30~16:30 (支部以外会員・一般参加可能)
とちぎ青少年センター・多目的ホール
動きや表現(予定) 講師: 西 洋子(東洋英和女学院大学大学院教授)



信越・北陸支部 — 近況 —

事務局長 西巻 靖和

信越北陸支部では平成23年度に支部役員選挙を行い、今年度から新体制で運営を始めました。

6月17日(日)に第10回支部学術大会を(大会テーマ『音楽療法の本質をみつめて』 大会長:松田美穂先生)新潟県新潟市の朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンターで開催し、一般参加者、250人、学会会員等70人で320人余りの参加者がありました。

内容は講演「唱歌《おぼろ月夜》を作ったのは誰?」~様式分析による文部省唱歌の作曲者特定の可能性について~(講師 後藤丹先生 作曲家・上越教育大学大学院教授)、「前頭葉機能不全と神経心理ピラミッド」(講師 立神粧子先生 ピアニスト・フェリス女学院大学音楽学部および大学院音楽研究科教授)、最後は「音とともに元気になろう!~音楽療法のデモンストレーション~」が行われ、充実した内容かつ、最後は会場全体で参加し楽しいエンディングで終わりました。次年度は平成25年6月22日~23日と福井県で開催予定です。支部学術大会の開催については、今後、各県の状況に応じ、負担のない開催方法や運営をそれぞれ検討してもらいながら、併せて幹事会でも協議していくことになっています。

現在支部内で団体登録されている研究会は12団体あり活発な研究、研修活動が行われております。

新事務局:〒384-0803 長野県小諸市丙842-1 日本音楽療法学会信越・北陸支部事務局

TEL & FAX 0267-25-1689 E-mail otodama@nifty.com



東海支部 — 近況 —

支部長 佐治 順子

東海支部からは、以下の3点をご報告いたします。

1. 第14回日本音楽療法学会学術大会を、2014年9月19日(金)~21日(日)に、名古屋国際会議場で開催いたします。中部・名古屋空港からも、名古屋 JR・新幹線駅からも便利な場所です。たくさんのご参加をお待ちいたしております。
2. 第12回東海支部大会と第3回東海支部研修会を、2013年4月21日(日)に、名古屋音楽大学で開催します。詳細な内容については、支部 HP をご覧ください。
3. 支部ニュースレター第21号を、2012年8月に発行いたしました。詳しくは、支部 HP をご覧ください。



近畿支部 — 近況 —

事務局長 池田 智子

近畿支部では2013年3月2日(土)・3日(日)に大阪音楽大学にて、第11回近畿学術大会を開催いたします。大会実行委員会と支部教育研修委員会により着々と準備が進められています。会場は大阪駅から電車で10分という交通の便の良いところにあります。他支部会員の方も歓迎いたしますので、どうぞご参加ください。詳細は近畿支部ホームページ (<http://www.jmtak.com/>)に掲載しておりますのでご覧ください。

また、2002年より発行しています『近畿音楽療法学会誌』はVOL.11を12月に発行する予定です。原著論文や事例研究、近畿学術大会講習会の内容、近畿支部活動記録のほか、第10回近畿学術大会で初めて実施された8つのラウンドテーブルの報告記事を掲載する予定です。ラウンドテーブルとは、一つのテーマについて興味を持つ人々が小さな会場でじっくり語り合うという企画です。購読をご希望の方は近畿支部事務局 <jmtak@guitar.ocn.ne.jp> までお問い合わせください。

中国支部 — 近況 —

支部長 武田千代美

中国支部は、去る6月16、17日の両日、山口県岩国市のシンフォニア岩国において、第12回中国支部大会、ならびに第19回支部講習会を開催いたしました。

「音・音楽の力とは～今・共に・生きるための音楽療法～」を大会テーマに掲げ、クライアントと共に生きるために、寄り添うために、セラピストである私達は何ができるのか、何を学ばなければならないのか、どう捉えればいいのか、日々思い悩んでいる心の中を語り合い、研鑽を深める会となりました。

基調講演には生野里花先生をお迎えし、「臨床に根ざした音楽療法～かかわること、みつめること、あゆむこと～」と題してご講演いただきました。

講習会は、第1講「ホスピス緩和ケアにおける音楽療法の役割」と題して矢津剛先生に、第2講「発達の障害というものの正しい理解」と題して林 隆先生に、第3講「音から音楽へ」と題して田中照通先生に、それぞれご講演いただきました。

開催に際しまして、ご協力を賜りました先生方、関係各位に深くお礼申し上げます。

ニューズレターは10月に発行予定です。支部ホームページもどうぞご覧ください。

さて、すでにお知らせをしておりますように、次回の全国大会は鳥取県米子市にて開催されます。開催1年前となり、現在鋭意準備中です。会員の皆様には、ぜひご参加いただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。



四国支部 — 近況 —

事務局長 三崎めぐみ

「香川で支部大会が開催されます。」

こちら四国もようやく秋らしくなってきました。9月7、8、9日には全国大会に参加し、宮崎の地で楽しく交流に勉学に励むことができました。九州の皆さま、ありがとうございました、そしてお疲れさまでした。四国は引き続き来月10月28日に支部大会を準備しております。今回は香川が担当県、仔細は下記の通りです。

第8回 日本音楽療法学会四国支部学術大会 および 総会

会場：香川短期大学（香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番）

日時：2012年10月28日 10：00～16：30

講演：10：15～ 柿崎次子先生「感覚統合の視点に立った音楽療法的使用法」

14：10～ 藤本禮子先生「高齢者の音楽療法、楽器活動のすすめ」

このほか研究発表も行われます。おうどん屋さんもあちこちにありますが、ちょっとのぞいてみませんか？ お問い合わせなどありましたら090-2893-2573へどうぞ。



九州・沖縄支部 — 近況 —

事務局長 西林 淑子

九州・沖縄支部の近況としては、講演や研究発表を行う支部大会の他に、年間3回の講習会を行っている。その中の1回は熊本、大分、宮崎、福岡での回り持ちとし、各地の役員がニーズに合わせた内容で企画運営している。またその他2回は福岡において、認定者限定の自己研鑽のための講習会を行っている。最近3年は集団精神療法のグループ体験を通して内省や、自己分析、観察力等々を高める事を目的として行っているが、継続での受講者が殆どで好評を得ている。

認定者にはそれぞれの更なるスキルアップが求められているが、講習会へも参加しない会員も多いのは残念である。また一方では最近の新認定制度の対象者からは「鍵盤の弾き方を講習して欲しい」とか「どのようにしたら実践の経験（見学も含め）ができるのか？」などの問い合わせもあり、会員の意欲や温度差、認識の格差等に、とまどうばかりであるが、九州・沖縄支部としては、これまでのように「音楽療法士の専門性を高める講習会」を継続して行う予定なので、多数の参加を期待する。

※発行日の関係で文中各支部近況の催事が終了しているものがありますのでご了承ください。

学会事務局からのお知らせ

■ 2012年度資格審査を申請される方へ

2012年度資格審査申請期間、申請方法等につきましては、7ページをご覧ください。

■ 2012年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2012年10月31日までに提出された更新および猶予申請の審査結果は2013年2月初旬に通知されます。

■ 「音楽療法士認定規則（新版）」の発行について

「新認定制度」の制定に伴い、2010年9月1日に「音楽療法士認定規則（新版）」が発行されましたが、今般一部見直しが行われ、改訂版が発行されています。今後はこの改訂版に添って認定制度が運用されます。購入を希望される方は、500円の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、「認定規則（新版）請求」として事務局へお申し込みください。（会員のみが配布対象です）なお、返信用封筒は不要です。

※上記認定規則に沿って資格取得を目指される方のための講習会は、**2014年9月**から開始となります。

※既に音楽療法士（補）資格を取得された方は、この認定規則は不要です。

■ 「資格更新規則（申請書）」の取り寄せについて

500円の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、「更新規則請求」として学会事務局へお申し込みください。なお、返信用封筒は不要です。

※資格更新の該当の方には当該年度の5月上旬までに、更新規則を全員に事務局から送付しますので取り寄せは不要ですが、早くご入用の方は上記方法でお取り寄せください。

■ 「カリキュラムガイドライン11」の取り寄せについて

会員の方は「カリキュラムガイドライン11請求」として学会事務局へお申し込みください。会員外の方は、120円切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）を同封の上お申し込みください。

■ 「抄録の書き方」のご購入について

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されています。（B5版76ページ、2006年8月23日発行）購入を希望される方は1,000円の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、「抄録の書き方請求」として学会事務局へお申し込みください。なお、返信用封筒は不要です。

■ 「音楽療法士（補）試験問題解説集」のご購入について

2001年度から2011年度まで過去11回おこなわれました音楽療法士（補）認定試験の試験問題解説集が、年度別と合冊版で発行されています。購入を希望される方は以下に沿ってお申し込みください。

【取り寄せ方法】

希望の試験問題解説集の年度と冊数（合冊版を希望の場合はその旨）を明記の上で、冊数分の合計金額の郵便為替（郵便局にて購入）を同封して、学会事務局へお申し込みください。為替は金額に応じて、1,000円の定額為替を必要枚数購入されても、合計金額の額面で普通為替を1枚購入されても、どちらでも結構です。なお、返信用封筒は不要です。

認定音楽療法士（補）試験問題解説集	金額（送料込）
2001年度～2011年度 単年度版（希望年度を明記してお申し込みください）	各1冊 1,000円
2001年度～2005年度、2006年度～2010年度 5ヵ年分合冊版	各1冊 2,000円

■ 学会誌バックナンバー、学術大会要旨集のご購入について

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバー、および学術大会要旨集（抄録）のバックナンバー購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社
TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634

■ 第12回日本音楽療法学会学術大会 講習会資料集の購入について

2012年9月に宮崎でおこなわれました、第12回日本音楽療法学会学術大会の講習会資料集の購入を希望される方は、郵便為替（郵便局にて購入）1,500円分を同封の上「第12回日本音楽療法学会学術大会 講習会資料集請求」として学会事務局までお申し込みください。

■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2011年度分未納の方はそのまま放置されますと2013年3月末にて会費未納退会となります。この場合再入会はできません。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円
購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口
振込先 郵便振替口座 ○加入者名：日本音楽療法学会
○口座番号：00120-9-657711

■ 事務局への各種お届けについて

● 会員区分変更

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。事務局まで文書にて区分変更の届出をお願いします。書式は自由です。正会員から学生会員へ変更を希望される場合も事務局へ届け出てください。（学生証のコピー添付）

※学生会員の場合は認定申請ができないとともに、研究発表、論文発表もできません、ご注意ください。

※認定をお持ちの方、新認定制度をご受講中の方は正会員であることが必須のため、学生会員への変更はできません。

● 住所・名義変更

市町村の合併などを含め住所に変更があった会員の方は、事務局まで文書にて住所変更を届け出てください。書式は自由です。名義変更時と同様をお願いします。

※認定をお持ちの方はローマ字氏名も合わせて明記してください。

※その他事務局への各種お届け方法の詳細については日本音楽療法学会ホームページをご覧ください。

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償のものに限定しますが、求人情報を事務局へお寄せください。

これは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。

■ 「団体総合補償保険」のご案内

音楽療法士の業務保険を同封のパンフレットのとおりにご案内します。加入を希望される方はパンフレット綴じこみの「保険申込 FAX 連絡票」にて記載の期日までに事務局まで加入依頼書を請求してください。

この保険は日本音楽療法学会会員専用として特に設定したものです。加入者が少ないと廃止となりますので奮ってご加入いただきますようお願いいたします。

なおこの保険についてのお問い合わせは TEL044-200-9421のセントラル保険までお願いします。

■ お詫びと訂正

つぎの誤りがありました。謹んでお詫び申し上げまして、訂正をさせていただきます。

*第12回日本音楽療法学会学術大会要旨集 157ページ、横田壽恵様のポスター発表抄録（表の下部分）に重複掲載と欠落がありましたので、欠落部分をつぎに掲載いたします。

B児は、身体接触を伴う交流に強い拒否はないが、身体をゆだねることができなかった。楽器を介しての交流を重ねるうちに Th とのやり取りを受け入れ、その後 Th に身体接触をゆだねるようになった。また楽器を介した交流を生活場面でも「やりたい」とケアワーカーに訴えるようになった。C児は、身体接触を伴う交流を抵抗なく受け入れ、その後他児との交流では、やり取りに楽しみを求めるようになった。D児は、どの交流も強い拒否なく受け入れる反面、Th との交流では遠慮がちで、間違えないようにすることに注意が注がれることが多かった。

【考察】 段階 I を抵抗なく受け入れた C児は、その後の活動も拒否を示さず受け入れ、他児との交流では、楽しみや満足感を求めるように変化した。しかし、B児の様子からは、児童が受け入れやすい段階で交流を深めた結果、親和的な対人交流が促進されたと考えられる。このことから、直接的な対人交流に向き合える準備が整っていなかったと推測され、その場合、意図的に音楽と楽器を使用することで、受け入れやすい交流になったと考えられる。そして、D児のように、各段階は受け入れているが、交流に親和性が見られない場合も、音楽を介することで、大人との間に恐怖感や痛みを伴わずに交流の経験を十分に重ね、親和的な対人交流が深まるのではないかと考えられる。このように、音楽療法では、生活場面での支援の中心となる「育ち直し」で総合的に体験していくことの中の一つに焦点を絞り、支援の充実を図れる可能性があると考えられる。

*学会ニュース23号4ページ3欄 誤 藤井昌枝（栃木県）→ 正 金田昌枝（栃木県）敬称略

*音楽療法士（補）試験問題解説集2006～2010年度合冊版の2008年度116ページ94問解答
誤 d → 正 c